

(二)船場川 姫路競馬場 洪水調節池 だより

第9号
平成29年9月29日
兵庫県中播磨県民センター
姫路土木事務所

土留矢板の設置が完了し、矢板内部の土砂を掘削中！(分水施設工事)

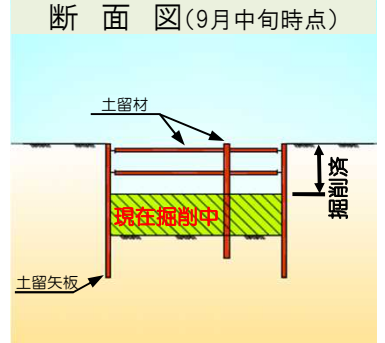
6月末に工事着手した「分水施設工事」は、土留矢板の設置が完了し、土砂の掘削が終盤にさしかかっており、10月半ばから分水施設(現場打ち鉄筋コンクリート構造物)本体の建設作業へ進んでいきます。

この分水施設は、船場川左岸の護岸機能も兼ねた施設であり、既設護岸の一部を取り壊し、その場所に建設することになります。

よって、分水施設を建設するためには、川の中で実施する大規模な工事作業も発生しますが、6月から10月末までの期間は、川が増水する時期なので、原則工事作業ができないルールになっています。

そこで、今回の工事では、「(前半工事)川の中の作業が発生しない工事範囲」と「(後半工事)川の中の作業が必要な工事範囲」との2段階の工事計画をたて、まずは前半工事からかかっているところです。また、後半工事の着手は、台風シーズンが終わる12月頃を予定しています。

次号では、分水施設(現場打ち鉄筋コンクリート構造物)本体の建設作業をリアルタイムで紹介したいと思います。



施工状況(H29年7月～9月中旬)



土留矢板の打込み状況 (H29.7.26撮影)

①振動を出さないために、ドリルで地中の土をほぐした後に、土留矢板をクレーン車で吊りながら、静かな圧入により地中へ埋込みました。



前半工事分の土留矢板が設置完了！ (H29.9.4撮影)

②前半工事の範囲が土留矢板で囲まれ、これから地中方向へ約7mの深さまで掘削していきます。



通常のバックホウによる掘削状況 (H29.8.31撮影)

③水平方向の土留材を設置するまでの、上部の掘削は、水平移動がしやすい標準的なバックホウで掘削していきます。



スライドアーム仕様のバックホウによる掘削状況 (H29.9.14撮影)

④水平方向の土留材を設置した後は、作業空間が狭くなるため、『スライドアーム仕様バックホウ』という重機を使い、クレーンゲームのように地表面から上下の動きにより掘削していきます。

これなあに？

今月の「工事現場から」

今回は、工事現場の建設環境に関して、地域生活の中でも比較的身近な「騒音」「振動」について、現場状況の『見える化』に向けて取り組んでいる対策をご紹介します。

分水施設工事の現場では、大きな重機が頻りに動きながら土を掘っていく作業等があり、周辺の日常生活への配慮が必要であるため、「騒音」「振動」に気を配りながらの作業が欠かせません。

このため、リアルタイムに騒音・振動の大きさを表示することで、現場周辺を往来する方々に、規制値内で工事作業が行われていることをアピールし、工事現場の信頼向上に努めています。

騒音振動計(デジタル表示板付)の設置状況



(拡大写真)

規制値を超えていれば、警報回転灯が作動！



騒音の基準値: 85デシベル(※)

振動の基準値: 75デシベル(※)

※デシベルとは騒音及び振動の大きさを表す単位になります。

(H29.8.7.撮影)

■船場川のある風景■

山陽新幹線の高架と交差する付近の船場川では、姫路モノレール等と共に歩んできた歴史が、当時の写真から蘇ってきます！

山陽新幹線のすぐ北側の船場川 (下流方向を眺めて)



(出典:船場川「再発見」)

山陽新幹線をくぐった南側の船場川 (上流方向を眺めて)



(出典:船場川「再発見」)

記憶に新しいと感じる方も多いと思いますが、「船場川」と「姫路モノレールの橋脚と軌道」、そして「レトロさを感じる煉瓦造りの工場」が良いバランスで調和した歴史を感じるワンショットがありました。

年月が経過し、老朽化のため今後残しておくことは困難とのことから取り壊され、今では思い出の写真になっています。